

# あみす

雨水利用を進める  
全国市民の会  
会長 辰濃 和男  
〒131 東京都墨田区東向島  
1-8-1  
TEL 03-3611-0573  
FAX 03-3611-0574

8月7・8・9日

## 雨水利用自治体・市民フォーラム せまる

すみだリバーサイトホール・墨田区役所

### 雨水利用自治体フォーラム

8月7日（金） 9時半開会

午前中は、ユハ・ウィット氏と高橋裕氏の「基調講演」、環境庁および東京都の「政策報告」、辰濃和男氏による「市民からの提案」などがあります。午後は2時から、6首長による「雨水利用自治体サミット」です。

### 雨水利用市民フォーラム

8月8日（土） 10時開会

市民が中心になって実行委員会を結成し、準備を進めてきた私たちのフォーラムです。

### 「ベルリン市エコシティの試み」

10時15分、ピーター・トマス氏の報告です。雨水利用の先進地ベルリン市で、どんな取り組みが行われているのでしょうか。

どうか、お聞きのがしのないように！

### 雨水利用グローバルネットワーク会議

「雨水の時代を拓く」 11時

（2面参照）

### ポスターセッション 1時～3時

81人にのぼる市民・学生・自治体などの多彩な雨水利用への取り組み、提案を行います。ぜひお立ち寄りください。（4・5面参照）

分科会 3時～4時45分

#### ・第1分科会

##### 「これからの雨水利用建築」

多くの建築家の方々を中心に建築の技術、コストなど、今後の課題についても考えます。ドイツ水有効利用集団のクラウス・ケーニヒ氏も出席します。

#### ・第2分科会

##### 「雨水をためて自然を蘇らせよう」

自然の回復がテーマです。トンボが育ち、螢がとびかう町――夢でしょうか。

（3面参照）

#### ・第3分科会

##### 「わたしのまちの雨水利用」

雨水利用実践の主体は、市民です。墨田の婦人たちの知恵と行動力、雪国の利雪、香川、八王子、松山、さらにオーストラリアでの実践を参考に、あなたのまちの雨水利用を考えてみませんか。

#### ・ミニコンサート・分科会のまとめ

・子供コンサート 5時から

#### ・雨水利用交流会 6時半から

手作りの食べ物たっぷりと飲物。福引。役員主演の寸劇。楽しい交流会をお約束します。

子供たちにどんな環境を残しますか

8月8日(土)

## コーディネーター 語る

市民フォーラムに向けて

山本耕平さん

### 11時 ■雨水利用グローバルネットワーク会議 「雨水の時代を拓く」

パネリストとして、財団法人・地球環境戦略機構というところの上席研究員のグレン・パオレットさんを交えて、松本正毅、小川幸正、伊礼弘、村瀬誠の市民の会のメンバーで、雨水利用における市民、事業者、行政の協働やグローバルネットワークづくりについて討論します。

グレン・パオレットさんからは、地球規模での水資源の問題提起をしていただくとともに、わが国の雨水利用の課題や、ネットワークづくりに向けた助言もお願いしております。

松本さんは、デザイナーが本業です。平成10年度から市民の会に発足した「国際雨水センター」検討チームの一員として、今後のネットワークづくりの方向を提起してもらいます。小川さんは大林組のエンジニア。

ニア。今回は、企業に身を置く立場から、行政や市民との協働のあり方について話していただきます。

伊礼さんは、昨年お世話になった沖縄フェアの立て役者。自治体間の協力や市民と行政のネットワークをとおして、沖縄の知恵や経験をいかす方法について話していただきます。村瀬さんからは、グローバルなネットワークの必要性と可能性について、豊富な海外での見聞にもとづいて、提言してもらう予定です。

それぞれの立場で活躍しているメンバーから、選りすぐってパネリストをお願いしました。「みんなで、元気を出して雨水利用を広めよう」というフォーラムですから皆さんの、多数のご参加と、フロアからの発言を期待しています。

石田幸彦さん

3時 分科会

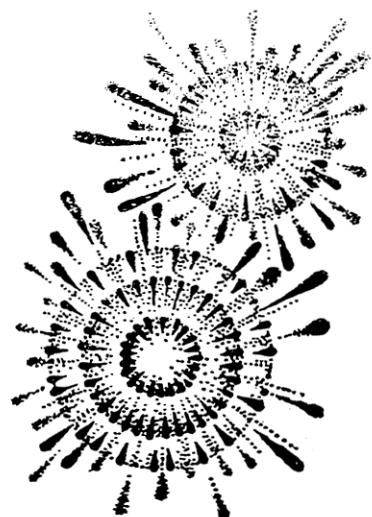
### ■わたしのまちの雨水利用

雨水利用の促進を妨げているのは、何だろう。

雨水を含めて、水循環への理解が一般市民に不足しているため? いや技術的問題だろうか。だとしたら、どんな課題が提起されているんだろう。

それとも制度上の問題だろうか。そこにはどんな問題があるんだろう。いやいや、そうではなくて、行政のやる気の問題なのかな?

各地域の雨水利用の実践に学んでみよう。





森 清和さん

### 3時 分科会

#### 雨水をためて自然を蘇らせよう

横浜市には「エコアップ」と呼んでいる、ビオトープに似た言葉があります。人と自然との関わりをどう繋いでいくか、「人」からの視点も大切にしているところが特徴です。

私は、その市の環境研究所で「エコアップ」のための業務を、ソフトとハードの両面から行っています。特に、ふるさとのシンボル的な生物であるトンボやホタル、メダカの住める環境を取り戻すための仕事です。実行するためには、市民と一緒にいいと思って、気がつくと、数多くの市民活動に関わっていました。おかげで、休みもないような状態ですが毎日楽しくやっています。

今まで「点」で行ってきた活動を、「線」で結んでいって、都市全体をエコロジカルな街にしていくことが目標です。「はじめにトンボありき——」。生物を育むことは小さな課題のように思えるかもしれません、環境の変化を訴える重要な役割を果しているのではないでしょうか。

トンボやホタルのように、親しまれてきた生物のバックグラウンドには、かつて農業がありました。ですから、米作りを中心とした農業的な環境、それとともに培われてきた文化を知ることが大切です。

環境問題、水問題を考えておられる方は、これから「農（農業）」に対する意識を、今以上にもっていただきたい。分科会では、このような視点で問題提起できれば、と思っています。ぜひ、ご参加ください。



会員のケイト・ストロネルさん

「雨水を取り入れる家」を考える建築・設計ワークショップを8/7(金)の午後5時～8時に開催予定です。場所は当日、自治体フォーラムでお知らせします。「建築・設計にたずさわる若い人を主な対象に、雨水利用についての課題と具体的目標について考える場」としたい」と抱負を語っています。

ケイトさんの父親であるジェームス・ストロネルさんも参加しますので、オーストラリアでの実践の話も直接、聞くことができます。

#### 5/27 エコ・パートナーシップ東京会議「水循環・生態系」分科会

村瀬さんがコーディネーターを務めた会議ですが、立ち見が出るほどの熱気で、この課題に対する関心の深さが伺えました。

タイ・ドイツ・日本の5人の発表者から、スライドを使った、研究・活動の説明・報告がありました。

中でも北タイ農民ネットワークのジョニ・オドチャオさんの次の言葉が印象的でした。「水を使うなら水源を守れ。自然を使うなら自然を守れ」

8月1日から30日まで、広島市の江波山気象館では「雨水利用大作戦」という企画展を開きます。「雨の正体」「雨乞い」「雨と虹」「雨水利用アイデア」など、館内は雨、雨、雨。

市民の会も企画に協力しました。

## 8/8 ポスターセッション

8/8、市民フォーラムで1時から3時まで、区役所一階のアトリウムで行われます。ぜひ、当日来られて、多くの皆さんの雨水利用への意気込みに触れてください。この紙面では、3件のみご紹介します。

### ・ガーデニングと家の雨水利用

◆ 塚田三千代さん (愛知県)

今やガーデニングが大はやり。

塚田さんのお宅には、300本のパンジーをはじめ、たくさんの花が植えられています。朝夕の水やりに、一日60～80リットル、時には120リットルの水を使います。これをすべて雨水でまかなっています。

家屋と駐車場の屋根に降った雨は、ドラム缶や大ガメ、1トンのタンクに溜まります。タンクには電動ポンプがついていて、夏は屋根に水をまいて冷し、この水が当然またタンクに戻り、風呂、手洗い、洗濯にも利用されます。

洗面所や風呂の排水は、屋外のドラム缶に溜めて、花の水やりなどに使います。工夫によって雨水が何度も再利用されているのです。ガーデニングの見学に来られた人が「水が大変ですね」と心配そうに言います。「2ヶ月の上下水道料金が4500円くらいなんですよ」と、期せずして雨水利用の話に発展するそうです。

### ・那覇空港自動車道（南風原道路）の雨水利用

◆ 上原 辰夫さん (沖縄県)

今、沖縄県の南風原町（はえばるちょう）では、高速道路に降る雨を利用して、桁下の空き地に、植物公園などを作る計画を進めています。全長5.8キロメートルにおよぶ規模で、題して「南風原町『はな・みず・みどりの大回廊』計画」です。

この空港自動車道の南風原区間に降る雨水の量は、年間約27万トンになります。この雨水を桁下のろ過装置付きのタンクに溜め、農業用水や防火用水、樹木への散水に利用し、更に海に面していない町の人々が楽しめる、水辺空間をつくる予定です。

町の花であるブーゲンビリアを全線にわたって植え、植物園には多くの種類の、自然の花を咲かせたい、と考えています。

散歩道や、ジョギング・コース、サイクリング・ロードも計画しています。出来上がったら、ぜひおいでください。

## ポスターセッション

## ・水の空間

◆伊川 哲夫さん(東京都)



伊川さんは、東京都建築士事務所協会の墨田支部長をつとめておられます。今回のポスターセッションは、墨田区に、地球環境問題と雨水利用のテーマパークを作ろう、という提案です。

このテーマパークは、地球環境に関する情報発進の場となる「テーマ館」と、自然環境を体験できる「自然の森」からできている、ということです。楽しみです。詳しくは当日にご期待ください。

## 阪神大震災の被災地へ送った 「天水尊」のその後を訪ねて

■ 中臣 昌広

## はじめに

3年前に、「市民の会」の前身である「雨水利用東京国際会議実行委員会」は、避難所などに設置する応急給水タンクとして約100基の天水尊を、神戸市の被災地へ送りました。あの混乱の中で、天水尊が応急給水タンクとして大いに役立ったことは私たちにとって何よりの喜びです。

その後、天水尊はどう使われているのでしょうか。去る4月17日から19日まで、副会長の徳永暢男さん、幹事の市川龍さんの3人で、神戸へでかけ、天水尊の設置状況を調査し、状況によっては修繕をしてきました。

## 神戸市長田区

20基を置いた真野地区では、まちづくり推進会副代表の岸野賢治さん(87歳)の案内で調査しました。私立真野小学校に置かれた2基について、架台がずれて取水できない状態だったので、修理しました。

地区内に置かれた天水尊の中には、日常的に植木散水に用いられているものがあります。赤色の防災用バケツのそばにあったのが、印象的です。また、引っ越しにともなって廃棄され、悲しい運命をたどったものもあります。

## 神戸市灘区

阪神電鉄の西灘駅周辺を、味泥復興委員会の慈憲一さん(31歳)の案内で調査しました。駅の近くで被害が大きかった地域では、倒壊した木造賃貸住宅が共同化されて、集合住宅が建設中でした。

神社に置かれた2基の天水尊の樋が目詰まりしていたため、修理しました。民家の雨樋に接続され、植木散水に利用されている場所もありました。

## 神戸市垂水区

JR山陽本線の垂水駅周辺を、垂水区自治会連絡協議会会长の糟谷日出男さん(77歳)の案内で回りました。商店街や家庭の庭先で利用されているものがありました。一方、雨樋から外れ、放置されたものもありました。

## 調査を終えて

天水尊のその後を見て、大切に使ってくれているところと、雨水利用の考えが充分に理解されず、放置されているところの2極化が進んでいるように感じました。

今後、長期的に技術的なバックアップを行うとともに、雨水利用の趣旨をPRしていくことが必要ではないでしょうか。



## おまみず



上林 裕子さん  
ジャーナリスト  
「市民の会」幹事

市民の会の、時にシビアで、ユーモアセンス抜群のアイデアマン、上林さんの登場です。斯うしたところに「ただの口だけ女なのよ」と、ご本人は謙遜している。

'93年のエコフェアで徳永暢男さんと出会ったことがそもそも「雨水」とのなれそめで、雨水利用東京国際会議の実行委員に参加し、現在に至っている。「『市民の会』の運動は出入りが自由で、運営がオープンなことがおもしろいと思う。雨水と関わるようになってからは、雨が嫌いじゃなくなったかな」と語ってくれた。

1970年ごろ、出産に前後して、母乳がP C Bで汚染されているとの報道に危機感をもち、このことがその後の、ストップフロン

運動や生協活動のきっかけになったそうだ。

現在は生協関係の新聞の専属記者を勤め、遺伝子組み換え食品の問題、特に大豆に関心がある。日本の大豆の自給率は3%で、そのほとんどをアメリカなどから輸入している。一説によると、今年のアメリカの大豆の作付けの60~70%が遺伝子組み換えものとのこと。驚きだ。山形のお百姓さんとのつきあいで、今年から大豆トラスト運動に取り組んでいる。年会費4,000円で、安全でおいしい豆腐と味噌にありつける。詳しくはご本人に。

今度の雨水利用市民フォーラムでは、ドイツでお会いしたピーター・トマスさん（ベルリン市都市計画プランナー）に再会するのが楽しみとのことである。（M）

### 事務局便り

去る5月の総会には、会員の皆様のご協力をいただき、本当にありがとうございました。お蔭さまで、沢山の方々から委任状を提出していただきました。年一回の総会ですので、会員の意思表示をしていただく唯一の機会ともいえるのではないかでしょうか。会員としての義務と権利について、「雨水利用を進める全国市民の会」になったのを契機に大切に考えていくたいと思います。会員の皆様への情報提供サービスを充実させるよう工夫してゆく予定です。

春先から雨が多く、雨水タンクも絶えず雨水でたっぷり満たされていたのですが、これからは空っぽになる日も多いでしょう。地球温暖化防止のためCO<sub>2</sub>削減努力が続けられていますが、省エネルギー問題と同時に節水も大事になっています。資源としての雨水利用が見直され、価値が問われるうことでしょう。私たちも、省エネ・節水型のライフスタイルを大切に楽しんでいきましょう。

8月7~8日、雨水利用自治体・市民フォーラムも近づきました。ぜひ、墨田区でお会いしましょう。

(田中清子)

合言葉は

「フォーラムでお会いしましょう」

「雨水利用フォーラム」は単なるイベントではなく、ひとつの「いくさ」ではないでしょうか。21世紀にどんな地球と暮らしを残すのか、という。楽しい「いくさ」です。

8月8日の参加数は、7月21日現在、まだ約250人です。既に参加を申し込んだ人も、もう一度ご自分の周囲を見回して、友人、ご家族に、ぜひ呼びかけてくださるようお願いいたします。

参加申込は、「市民フォーラム運営事務局」まで

電話・FAX 03-3592-5012

担当 藤田・野村・松丸です。

もちろん、8日夜の雨水利用交流会以外は、当日参加も結構です。

では、「フォーラムでお会いしましょう！」

7月20日の東京新聞に「雨水利用自治体・市民フォーラム」が、紙面を大きく割いて紹介されました。雨水利用の意義、今後の課題から日程まで、詳しく書いています。今回は海外からの参加者も多いためか「雨水利用展望国際フォーラム」と位置づけています。当日、資料としてお渡しへくると思います。フォーラムで会いましょう！